

特集●地域における医師職のあり方

自治医大卒業の軌跡—地域医療と医師職の現状と課題

地域医療と医療職の展望—公衆衛生の立場から—	WHO 西太平洋地域事務局長	塚原 太郎・梶井 栄治・高久 史磨
北海道における勤務医師の現状と課題	北海道保健福祉部技監	尾身 茂
地域医療における公衆衛生医師職の役割	高知県中央東福祉保健所長	後藤 良一
総合医	医事評論家	田上 豊資
わが国におけるメディカルスクール検討と医師職の教育のあり方	聖路加国際病院院長	水野 肇
社会と医療—社会的共通資本—	同志社大学社会的共通資本研究センター長	福井 次矢
		宇沢 弘文

●視点

公衆衛生としての循環器疾患予防—大阪大学大学院医学系研究科社会環境医学教授 磯 博康

●特別記事

「被爆者の心の傷」から学ぶこと—代々木病院精神科 中澤 正夫・三井ひろみ

●トピックス

WHOの健康都市の取り組み—第3回健康都市連合国際大会 in 市川—市川市企画部 WHO 健康都市担当 高浜 伸昭

あ と が き

本誌では折に触れて、喫煙対策に関連した論文を掲載してまいりましたが、特集を組むのは2004年(第68巻12号)以来4年ぶりとなります。前回の特集テーマは「喫煙対策はどこまで進んだか?」でしたが、今回は「たばこ」の3文字を前面に出してみました。たばこ規制枠組み条約(FCTC)が発効した2005年以降、「たばこ対策」という用語が一般化したこと、および燃焼たばこの「喫煙」だけが対策の対象ではなく、わが国も「無煙たばこ」(ガムたばこ)に無縁でなくなったことなどを意識した特集タイトルです。

冒頭で尾崎先生から、たばこ対策に関連した研究の現状と課題を鳥瞰していただきました。たばこ対策を推進するためには、幅広い視野からの研究に基づくエビデンスの創出とその活用が重要であることを痛感したところですが、今

回の特集では特に、FCTC 発効後に進展の大きかった分野、あるいは新たな課題が露呈してきた分野の研究に関する玉稿が揃いました。

わが国の「たばこ対策」の水準を欧米先進国並みに高めるための重要な鍵は、「政策研究」のようです。幸いにも、たばこ対策をめぐる、保健医療関係の専門学会やそのネットワーク組織による行動が活発化しており、禁煙治療や受動喫煙対策などの政策実現に貢献していることは、大変喜ばしいことです。

今回の特集が刺激となって、たばこ対策を効果的に推進するためのアドボカシー活動(政策的な提言や行動)がさらに促進されることを期待しております。

(阿彦忠之)

公衆衛生(第72巻 第7号) 2008年7月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,415 円(本体 2,300 円+税 5%) (2008 年 年 ぎ め 予 約 購 読 料 28,200 円 ※ 配 送 料 弊 社 負 担)

発行: 株式会社 医学書院 代表者 金原 優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

本誌編集室直通 TEL (03) 3817-5718 FAX (03) 3815-7802

販売部直通 TEL (03) 3817-5659・5660 FAX (03) 3815-7804

E-mail: koshu@igaku-shoin.co.jp 振替口座 00170-9-96693 番

印刷所: 三美印刷(株) TEL (03) 3803-3131

広告申込所: (株) 東広社 TEL (03) 3409-8803/デザイン: デザイン・プレイス

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

© 2008, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・ JCLS 《日本著作出版権管理システム委託出版物》

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に《日本著作出版権管理システム(03-3817-5670)》の許諾を得てください。

・ 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

・ 公衆衛生 URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/koshu/>

編集顧問

多田 羅浩三 大阪大学名誉教授・放送大学教授

林 謙治 国立保健医療科学院

編集委員 (50 音順)

阿彦 忠之 山形県健康福祉部・衛生研究所

品川 靖子 東京都文京区文京保健所

高島 木敏雄 大阪大学大学院医学系研究科

西田 茂樹 福島県衛生研究所

編集室通信

近年における新幹線・特急列車等の「禁煙車両」増加の陰に、医学 9 学会の結束と努力があったことを、本特集を通して初めて知りました。1 つの分野だけではなく、他分野と手をつなぎ協調することによって、それまでの「マジョリティ」がひっくり返る力もなる。しかし 9 つの学会が 1 つにまとまるまでのプロセスは、決して容易ではなかったことでしょう。たとえば「たばこ」とするか「タバコ」とするか、共通言語 1 つを決定するにしても、喧々諤々、長い議論を経たのだと想像します。関係者の方々のそのご苦勞に感謝すると共に、アカデミックな学会が世の中を変える可能性、底力を、再認識したのでした。日本公衆衛生学会の力に、これからも期待したいと思います。(野中)

(担当/野中・今田)